

○（第8分野）渡辺委員

ピアカウンセリングについての研究結果（現状）を示していただきたい

（①ピアカウンセリングについてどのように定義しているか ②ピアカウンセリングの限界、特徴、全体的な支援の体制の中での位置づけはどうなっているのか ③「仲間による相談」の危険性についてどう考えているのか。「仲間に相談しやすいこと」と「仲間の相談が有効」とは区別してください。）

（答）

別紙のとおり。

ピアカウンセリングについての研究結果について

○厚生労働科学研究（子ども家庭総合研究事業）

「ピアカウンセリング・ピアエデュケーションのマニュアル作成及び

効果的普及に関する研究」

研究期間：平成14～15年度

主任研究者：高村 寿子 自治医科大学看護学部教授

研究目的：思春期保健対策の強化および健康教育の具体的な取り組みの1つであるピア（仲間）によるカウンセリング手法を普及させるためのマニュアルの作成

成果：「ピアカウンセリング・ピアエデュケーション事業の立ち上げに関するマニュアル」

「ピアカウンセラー養成者（指導者）マニュアル&ピアカウンセラー養成マニュアル」

①ピアカウンセリングについてどのように定義しているか。

高村研究ではピアカウンセリングを以下のように定義している。

○ピアカウンセリング：人間の成長と心の健康に関する知識と共に、アクティブリスニング（積極的傾聴）と問題解決スキルを用いて、年齢、社会的地位、抱えている問題などにおいて立場が同様である人々にピアの意識を持って行うカウンセリング。

実践活動として、対象者のニーズによって個別、集団の活動に分けられる。

○個別：1対1のカウンセリング

○グループピアカウンセリング：6人くらいの小集団で中にピアカウンセラーが1・2名入りすすめる。

②ピアカウンセリングの限界、特徴、全体的な支援の体制の中での位置づけはどうなっているのか。

<特徴> 人は機会があれば自分自身の問題を解決する能力を持っているという前提のもと、ピアの意識を持ってカウンセリングを行い、カウンセラー自身が自分自身の問題に対して自分自身で解決策を見いだしていくことをサポートすることである。

<限界> ピアカウンセラーの活動期間は短い。また、ピアカウンセラーが活動においての悩みやパワーレスになった場合の支援が確立していない。

<位置づけ> 思春期の若者に対する健康教育の一方法。

③「仲間による相談」の危険性についてどう考えているのか。

仲間からの影響には好ましい影響と好ましくない影響がある。若者の行動変容に仲間（ピア）からの影響が大きいと考えると、ピアカウンセラーが若者に対し好ましい影響を与えられるよう配慮する必要がある。ピアカウンセリングを行う際には、正しい知識と十分なスキルトレーニングによるピアカウンセラーの養成と、また、保健関係者のコーディネート及びピアカウンセラーの支援が重要であると考えます。